

H22年度共同講義「久留米の生活と環境」

開講日時	講師	演題	講義内容	会場
10月5日(火)	佐塚 秀人 (久留米工業大学工学部情報ネットワーク工学科講師)	新しいICTメディアと地域情報発信	ウェブの普及でインターネットはわずか10年余りで社会のインフラとなった。ウェブはさらに新しい時代を迎え、一方的な情報提供から、様々な方向の情報をつなぐものに姿を変えつつある。新しいICT技術が作る情報メディアを地域情報発信に活用できるかを考えてみたい。	くるめりあ 六ツ門
10月8日(金)	井川 秀信 (久留米工業大学工学部交通機械工学科准教授)	幕末～明治期の久留米技術史(庶民生活に与えた影響)	日本は、幕末から明治にかけて欧米諸国の先進技術を取入れ、大胆な産業改革が行われた。久留米では、幕末期に久留米藩による近代化政策が行われた。久留米藩製造所が設立され、当時佐賀藩に仕えていた田中久重を呼び戻して先進的な技術改革が行われた。本講義では、久留米の産業技術と庶民生活の関わりについて解説し、ゴムの町久留米へと発展した歴史をたどる。	
10月12日(火)	小田 まり子 (久留米工業大学工学部情報ネットワーク工学科講師)	ユビキタスネットワーク社会における生活支援技術	現在既に到来していると言われるユビキタス社会。ユビキタスネットワークにより、いつでも、どこでも、だれでもITの恩恵を感じることができる社会が実現できているのでしょうか。高齢者や障害者も含む誰もが情報機器やサービスを利用してき便利で豊かな生活を送るために必要な支援技術について紹介します。	
10月19日(火)	藤田 雅俊 (久留米工業高等専門学校機械工学科教授)	都市とモビリティ・久留米市の公共交通を考える。	1市4町が合併し中核都市となった久留米市では、市域全体での利用者の快適な移動手段・モビリティを考える時期に差しかかっています。都市環境での様々な取組みを行っているヨーロッパの例を参考に、久留米市のモビリティを考えます。	
10月22日(金)	中島 裕之 (久留米工業高等専門学校生物応用化学科教授)	環境の中の地衣類とその工業的利用	地衣類は、久留米市内でも樹木の幹や石の表面等で見られますが、真菌類(地衣菌)と緑藻や藍藻(共生藻)との複合生物です。過酷な環境に対する耐性を有し、抗菌活性等の生理活性物質を産出します。本講義では、地衣類の基礎と工業的利用法について解説します。	
10月26日(火)	藤田 八暉 (久留米大学経済学部教授)	地球環境問題と温暖化防止対策	21世紀の最大の課題となっている地球環境問題について、その要点を概説したうえで、特に地球温暖化問題について、温暖化防止のための国際的な取組の経緯とわが国の取組の状況について解説する。	
11月9日(火)	河内 俊英 (久留米大学比較文化研究所特別研究員)	循環社会をめざして廃棄物問題を考える	環境問題を考えるときに廃棄物を無視できませんが、資源化や再利用すると、驚くほど削減できます。方法や理由を一緒に考えましょう。	
11月16日(火)	馬場 光義 (久留米市環境部環境保全室課長補佐)	久留米市の公害行政	これまでの公害行政の歩みや大気汚染、水質汚濁などの環境データについて昨年度の結果や経年変化などについて説明します。	
11月19日(金)	江越 和夫 (久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科教授)	食の安全	安全な食生活を送るためには、食の安全を脅かすものを知ることが必要です。本講義では、食中毒・ノロウイルス・食品添加物・農薬・プリオン・ダイオキシン・食品不祥事等について概説します。	

11月26日(金)	萩尾 ミドリ (久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科講師)	今、保育所・保育園に求められているもの	子どもや子育て家庭を取り巻く環境の変化により保育所に対する期待と役割が高まっている保育の現状について解説します。
12月7日(火)	岡部 千鶴 (久留米信愛女学院短期大学ビジネスキャリア学科教授)	久留米市の女性を取り巻く生活環境	久留米市の男女平等政策は全国でも有数の水準です。ひとり親家庭やDV被害女性への支援策を例に久留米市の取組みを学び、さらなる男女共同参画社会実現に向けて共に考えましょう。
12月10日(金)	大町 福美 (聖マリア学院大学看護学部准教授)	地域社会で考える子育て	子育てに悩む親の増加、幼児虐待などが社会問題として取り上げられる今、様々な子育て支援に対する施策が実施されています。しかし、子育てに関する問題は一向に解決されません。子育て支援の状況を概観し、私たち一人ひとりがどのように子育て支援に関わることができるか一緒に考えましょう。
12月14日(火)	秦野 環 (聖マリア学院大学看護学部准教授)	HIVとAIDS、世界の現状と、いま私たちにできること	現在世界では、約3,300万人の方が既にHIVに感染しており、毎年約300万人の方が新しくHIVに感染し、約200万人の方がエイズで亡くなっています。1980年代初めに発見され、アメリカ合衆国やアフリカのエイズが注目されてきましたが、日本でも現在約16,000人の方が感染されており、「外国の病気」では決してありません。世界の状況を概観し、いま私たちにできることを一緒に考えませんか。
12月17日(金)	日高 艶子 (聖マリア学院大学看護学部准教授)	高次脳機能障害者のセルフケアの再構築	高次脳機能障害とは、人が社会生活を営むうえで重要な言語、物や空間の認知、目的を持った行為、記憶、注意、遂行機能などの高次脳機能が脳血管障害や頭部外傷などを主たる原因とし障害されることをいう。高次脳機能が障害されると、食事、排泄、行為、整容、入浴などのセルフケアや社会生活が困難な状況となる。本講義では、セルフケアの再構築に向けた高次脳機能障害の介入方法について解説すると共に、高次脳機能障害を持つ人への理解を深めることを目的とする。
12月21日(火)	河内 俊英 (久留米大学比較文化研究所特別研究員)	久留米周辺の河川環境と飲み水	飲み水は、河川水に依存していることから、川の状態が「安全性やおいしさ」に関係します。その実情と将来について紹介します。

くるめりあ
六ツ門